



## 第9回 兵庫介護老人保健施設大会

# …たくさんの手と目で支え合う老健… ～人とICTで生産性の向上を～

施設サービス課 三輪 久美子

5月22日に神戸ポートピアホテル「偕楽の間」で第9回兵庫県介護老人保健施設大会が開催され、渡邊 久子 CW が演題を発表しました。大会テーマは **たくさんの手と目で支え合う老健 ～人とICTで生産性の向上を～** でした。

会場内はコロナが2類から5類に移行に伴い、昨年よりも出席者が増加しているように感じました。社会保険福祉協会 医療経済研究機構研究部 濱田 将太氏による「**LIFEの可能性について改めて考える**」という演題で特別講演がありました。

これまでは、どのような対象者にどのような内容のサービスを提供すれば自立に資するのか科学的根拠がなされていなかった。そこで科学的に自立支援の効果が得られる介護を国民に提供するために科学的分析に必要なデータを新たに収集し、世界に例のないデータベースをゼロから構築することを目標にLIFEを立ち上げたとのことでした。LIFEの研究はまだ発展途上にあり、LIFE以外からのエビデンスも取り入れながら介護の質を向上させていく必要があるとのことでした。現在の研究で分かったことは、離床時間が長い高齢者は食事摂取が良好で便秘の発生が少ない、離床時間が長いと死亡リスクが減少する。また、低栄養を伴う口腔健康不良者は1か月以内に予定外の入院する関連が高いことがデータ分析から収集できたとの事でした。LIFEは今後フィードバックに力を入れていくとの事でした。

午後から各施設の演題発表があり、むつみ荘から施設サービス課の渡邊 久子 CW が「昔取った杵柄、料理から広がるコミュニケーション」の演題発表をしました。元お好み焼き屋を経営しておられた入所者の方から「おいしいお好み焼きが食べたい！」と発言があり、施設で行っているおやつクッキングに参加してもらい、実際に職員と共にお好み焼きを作成してもらいました。クッキングのリーダーとなってもらうことで、利用者とのコミュニケーションの輪が広がったことを発表しました。